

「内陸地震。なんで地震はそこで起こるか？」

日程： 9月1日（火）13:30 – 2日（水）13:00

場所： 京都大学・阿武山観測所

趣旨：

内陸地震は我々の住む地域直下で起こりうることから、そのポテンシャルをいかに評価できるかという問題が、特に兵庫県南部地震以降、クローズ アップされてきた。地震発生ポテンシャルは、周辺からの応力载荷、地殻の応答、断層強度が重要なパラメータである。しかし、それらを把握することは困難であるため、現在はポテンシャルを評価するに至っていない。一方、近年の大規模な内陸地震発生域では、稠密地震・地殻変動観測によって地震発生様式や詳細な構造推定がなされ、それらの関連性が浮かび上がってきた。この関連性がポテンシャルを評価するために重要なカギを握っている。しかしながら、大地震発生前に地震断層や発生様式を構造異常から見出すことが難しい。たとえば、地震波速度で見ると、大地震の主破壊域では高速度、震源域下部では低速度が見られ、破壊様式に影響していると考えられる。しかし、地震発生域以外でも高速度・低速度域がみられ、その意味はよくわかっていない。

本研究会では、過去の内陸大地震の特徴を様々なタイムスケール・空間分解能の研究から切り取り、地震発生を規定する条件に迫ることを目指して問題点を浮き彫りにし、将来的な内陸大地震の空間的なポテンシャル評価へつなげることを目論む。

プログラム

9月1日

13:30 – 18:00

地震活動・構造からのヒント

飯尾能久（京大防災研）

兵庫県南部地震が投げかける問題について

#岡田知己・山本希・市來雅啓・三浦哲・松澤暢・長谷川昭（東北大・理）・吉田圭佑（防災科研）・東北地方太平洋沖地震合同余震観測グループ
東北地方中南部の地震波速度構造と地震活動

パナヨトプロス ヤニス（東大地震研）

2014年長野県北部地震の余震活動に基づく断層モデルと北部糸魚川・静岡構造線の地殻構造：MeSO-net観測点における計測震度評価

飯高隆（東大地震研）
跡津川断層域と濃尾地震断層域の地殻構造

津村紀子（千葉大理）
濃尾の反射と減衰の話

宮崎真大（九大理）
日奈久断層直下で発生する微動について

加藤愛太郎（名大理）
茨城県北部・いわき地域における誘発地震活動

討論

9月2日 9:00-13:00

応力場・流体の寄与からのヒント

#相澤広記（九大地震火山）・角野浩史（東大地殻化学実験施設）・上嶋誠（東大震研）・山谷祐介（産総研）・長谷英彰（地熱技術開発）・大野 正夫（九大）・高橋浩（産総研）・高橋正明（産総研）・風早康平（産総研）・TaWaT Rung-Arunwan（Mahidol大）・小川康雄（東工大火山流体）
比抵抗構造と地下水同位体比測定から推測する2011年富士山Mw5.9地震の発生メカニズム

#上嶋誠（東大地震研），小川康雄（東工大），市來雅啓（東北大）
いわき誘発地震帯での3次元比抵抗イメージング

勝俣啓（北大理）・小菅正裕（弘前大理工）・#片尾浩（京大防災研）・山田卓司・加藤愛太郎（名大理）・濃尾地震断層域合同地震観測グループ
濃尾断層帯における震源メカニズム解と応力場

松本聡（九大理）
内陸地震発生と周辺応力場について

酒井慎一（東大地震研）
我々は、どこまで観測すれば気がすむのか

討論